



学校教育目標：心豊かな子 たくましい子 自ら学ぶ子

ごきげんよう

校長 高野 英俊

梅雨空の雲行きの間際に強い日差しが降り注ぐ天気の日が多くなってきました。本校のプール開きは梅雨の晴れ間の比較的涼しい日に行われましたが、プールサイドの子どもたちは大喜びで、ニコニコ顔が多かったです。しかし、中に少し曇った表情の子どもが何人か見受けられました。水泳が苦手なのかもしれません。私は「プールでの学習は『自分の命を守る』勉強です。もし海や川などで水に落ちた時、自力で命を守る勉強です。だから苦手だなどという子ども、少しでもいいから水に慣れて、命を守る練習をしましょう。」と話しました。すると、曇った表情が少し和らいだように思いました。



「緑区バスケットボール大会
原山っ子の絆で さあいくぞ!!」

ところで、ある若い先生と話をした際に「挨拶」が話題となりました。その先生の通っていた大学では、廊下で先生や友人と出会ったときなどの挨拶や授業の初めと終わりの挨拶に、皆がいつも「ごきげんよう」という挨拶をしていたとのことでした。私たちの日常に「ごきげんよう」という挨拶は、ほとんど耳にしなないので、とても新鮮な感覚を抱きました。調べてみると大辞林には「会ったときや別れるときに、相手の健康を祈り祝う意をこめていう挨拶の言葉」とあり、「御機嫌よく」が変化したもので、御機嫌というのは単に気分のことだけでなく、体調や健康のことも含み、「どうぞお元気でお過ごしください」という意味を省略した挨拶とのことでした。また、「ごきげんよう」は、別れのあいさつに限らず、出会った最初の挨拶にも使え、さらに「おはよう、こんにち、こんばんは」と朝昼晩で使い分ける必要もなく、相手の健康を気遣いながら目上、目下も関係なく使える素晴らしい挨拶ということがわかりました。

私たちは普段、何気なく挨拶をしています。どのくらい意味を意識して使っているのでしょうか。その意味をいつも意識し、気持ちをしっかりと込めて挨拶をすることが大切ではないでしょうか。先日の原小朝会で「挨拶をしっかりと、いじめゼロ、皆なかよしの原山小にしよう。」と話しました。そして「ごきげんよう」という挨拶も説明したところ、今では「ごきげんよう」という子どもたちの声が廊下から響いてくるようになりました。子どもたちはもちろん私たち大人も気持ちを込めた挨拶をして、明るい雰囲気原山小に満ち溢れさせたいと考えます。

子どもたちが楽しみにしている夏休みまで約1か月となりました。梅雨明けと同時に子どもの気持ちもワクワクしてくるだろうと想像します。1学期のまとめの時期、教職員全員で力を合わせ、子どもたちの指導に当たります。保護者、地域の皆様には、変わらぬ御理解と御協力をお願いいたします。

今、昭和42年度原山小卒業生である西野朗さんがサッカーワールドカップ日本代表監督として、世界の強豪国との戦いを果敢にリードしています。まさに原山小の「元気・やる気・勇気」を体現してくださっています。西野監督が原山小卒業ということと西野監督のチャレンジ精神に大いに励まされるとともに、本校の誇りの一つとして記憶できることをうれしく思います。

がんばれ！サッカーワールドカップ日本代表チーム！西野朗監督！